とかち新聞

主筆 松山明
(発行所) 北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1カ月200円　1カ年前納2,000円

無理解な町と議会

小坂山開発をめぐつて

これが完成すれば足寄町の産業構造がかわるばかりでなく、周辺町村にも影響をあたえるといわれ、日本では最大ー世界でも有数と折り紙つきの小坂山を中心とする大型観光レクリエーション基地の建設計画について、余暇開発センターでは六月二十六日に東京都の都道府県会館に通産省や経済企画庁など政府各省庁の関係者に関連企業各社を招いて説明会をひらいたところかなりの反響を呼び、大手企業の協力態勢が得られる見通しともなつたので、さらにこの十五日にふたたび開催するはこびとなり、ハイランド株式会社（高山義雄社長）を主体とする四百十五億円にもおよぶ大がかりな事業が軌道に乗ろうとするおりから、かんじんの地元ではそれに逆行するような形で、町が同社に売り渡した九四六ヘクの土地の制約解除をめぐつてひと悶着がおきています。

というのは、一昨年九月三日の臨時町議会ではこの町有地処分には賛否両論が対立して難航のすえ十五対七で採決となつただけに、大事をとつて売り払い条件のなかに同社が五十六年九月三十日までに開発行為が完了しない場合は町が売り渡し代金の半額で引き取るという制約を設けて「付記登記」をしたことで、いまとなつてはこれが悶着の原因となつていることです。

問題は買戻し特約

土地を買つて代金を払つて登記をすませたのに、この買い戻し特約の「付記登記」がついているために自由にならず会社の信用にもかかわることなので、せめて将来別荘地として分譲する予定の二六六ヘクだけでもこの制約を解除してほしいとの同社の要請によつて町では昨年の七月にその分を解除しておいたところ、本年に入つて町議会の決算審査のなかでこれは議決無視であるとの指摘をうけたので、三月の定例議会を前にして町では会社側に頭を下げて解除を取り消して元の買い戻し特約の付記登記にして議会は町長の陳謝で切り抜けたものです。

ところがそのさい町としてはつぎの議会に正式に提案して議決をへてから解除することを約束していたにもかかわらず、その後なんども議会をひらきながら提案されず、シビレを切らした同社としては誠意のない町の態度にフンガイしているのが現状です。

このことについて小林町長としては二度にわたつて非公式に正副議長、正副委員長会議に相談をもちかけたものの、小坂山の開発工事はサツパリすすんでいない、平坦地の二六六ヘクを解除すればあとは傾斜地ばかりとなる、などの慎重論ーというよりもハイランドに対する不信感から提案しても議決を得るのは困難とみているようです。

これに対してハイランド側としては、三月いらい次の議会には、また次の議会でと引き延ばされて予定が狂つている、厳しい経済情勢のなかでこれまでに四億円を投じており、買い戻し特約が解除されたからといつても、国土利用計画法によつて町長の承認と知事の許可がなければ一ヘクの土地も売ることはできない、会社の財産であるこの土地が銀行融資にも協力企業との提携にも自由にならない障害はとり除いてほしい、計画よりおくれているのは道路造成に道の許可が得られないためで、こうした行政的な許可、認可事項には町が協力することになつているのに実行してくれないーと不満をもらしており、どうしても地元町の協力が得られないのでは会社としては重大な決意をしなければならないといつています。

協力か開発妨害か

町はハイランドとの契約の前に権威のある調査機関によつて会社、役員、協力者などの信用調査をして、信頼のできる相手であることを確認した筈なのに、契約にあたつては五十六年までに開発が完成しなければ町が罰則的に半額で買い戻すことにしたのは、はじめから半信、半疑で売つたことになりますが、かりに約束の年度までに完成しないからといつて、実際問題として半額の九千四百六十万円で町が買い戻すことができるかどうかということで、いまの時点でもすでに四億円も投資しているのに、いつてみたところでそれはヤボなはなしで、経済の変動その他の止むを得ない事情で期限までに完成しない場合に土地を明け渡せというならそれまでに投資した施設を町が買いとるなり移転補償をするなりの責任が生ずるので、こうした特約はなんら実効のないものであること。

この制約を解除したからといつて小坂山が大阪へもつていかれるわけではなく、土地が自由に売られるものでもなく、国土利用計画法、宅地造成法、自然環境保全条例その他によつてガッチリと規制されているので、これまでのような乱開発やハッタリ商法は許されなくなつており、特に小坂山の場合は通産省がつくつた公共的専門機関である余暇開発センターの構想、指導によつて計画をすすめているので心配はないのに、余暇開発という新規施策について道の事務当局が不馴れで道路一本の許可にも手間どり、このために事業がおくれているのが実情。

このためにハイランドとしてはこの二十六日に札幌でひらく自民党の政経文化パーテーに出席する三木首相、中曾根幹事長らと堂垣内知事をはじめ関係副知事部課長と別席で話し合いの場を設けて、余暇開発センターからも三名が出席して小坂山開発についての説明をおこなつて道側の理解と協力を求める手筈になつているそうです。

これに対してかんじんの地元の町や議会の対応ぶりは開発に協力しようというのか妨害しようとしているのかが疑われる状態にあることで、もともと小坂山周辺は畑にはならず草も木も育たない未利用の遊休土地で、町がもつていては一銭の収益もないところを一億八千九百二十万円で、しかも即金で買い、買つたハイランドとしてはもちろん営利が目的だとしても企業エゴで勝手なことをやるのではなく、余暇開発センターのマスタープランにしたがつて日本最大の施設と評価されるよい仕事をしたいと高山社長以下が社運をかけてとりくんでいるのに、町の方はどちらかといえば売つてやつたんだという意識で、町が誘致した企業であるという地場産業であるという感覚がうすいために育成、協力しようという姿勢に欠けているために、買い戻し特約を解除しないで町の土地であるかのような態度をとりながら、しかも昨年からハイランドに対して特別土地保有税として四百九十四万四千百二十円を賦課していることです。

なにも町は財政難のために小坂山で売り喰いをはかつたのではなく、緑の高原都市建設の一環として町に代つてハイランドに開発してもらうことにしたもので余暇開発センターとしては企業からの要請には応じない建前から、町の委託によつて一年間にわたつて現地を調査したうえでまとめた基本構想であるだけに、委託した町としては開発にあたる企業に協力していく責任があるというべきで、しかもこの町有地の売り払い処分議決にさいして小林町長は政治責任を負うと言明していたことは、ハイランドによる小坂山開発が失敗すれば町長は責任をとつて辞職することを町民に約束したものであつて生易しい問題ではないことで、企業のやる仕事だとして傍観しているわけにはいかないし町議会をはじめ町の各機関ができるかぎりの協力をしていくべき誘致企業であること。

ニュースを切る

五党の言い分

☆自民党の中曾根幹事長は『共産党と公明党は、自民党、社会党、民社党などと体質が違うのではないか、結束がかたく、右向け右で下までみんな右を向いてしまう、社会党や民社党や自民党は右向け右といつても向かないものも出てくる、自由民主主義だからで、自分の定見をもつているから上がそういつてもきかないが話し合いのなかでまとまつていく、共産党や公明党は軍隊的な性格をもつている、この二つの政党がくんだら背筋の凍る思いがする民主主義がない』

☆社会党の石橋書記長は『自民党と社会党の馴れ合いというが、共産党がアカ呼ばわりされるその裏返しで、話し合いをして少しでも私達の主張を入れて国民のためにベターなものを選択しようとすれば自、社馴れ合い、自、社共斗とキメつけるが、時代は動いている、もう自民党の一党支配体制、大企業優先の政治、金権体質に痛烈な批判が出て参議院の保革伯仲時代が生れ、やがて逆転の時代を迎える、自民党は三木さんでなくても野党の意見を徴する姿勢がなければもたなくなつている』

★共産党の不破書記局長は『社会党が三木内閣と対話をしているから馴れ合いとか共斗とかいつているのではない、公選法の改悪という三木内閣の最悪の部分を自民党といつしよになつて推進したので、これを自社共斗、自社連合といつたこれは公選法改悪にとどまらず三木さんは小選挙区制を考え、野党オ一党と意見の合わないものはやらないといつているので同じパターンでやられる』

★公明党の矢野書記長は『中曾根さんは統制がとれていると皮肉タツプリにいわれたが、私達は自民党の間違つたやり方に団結してたたかうが、党内民主主義がないかの如きいい方は失礼である、選挙法は政党のルールであつて他の法案のようにゴリ押しすべきでない、社会党と喧嘩する気持はない、これからも各野党と協力する必要があるが、共産党とは憲法論争をしている』

☆民社党の塚本書記長は『最後の政治資金規正法の投票が百十七対百十七、おそらく議会史上はじめてのことだと思う、与党と野党が対決すればこういう数字になる、もはや自民党一党だけの主張はなにものも通すことはできない、すでに連合時代はきたるとの民社党の分析がうきぼりにされた、したがつて自民党は他のいずれかの党と協力しなければ国会運営はできない社会党が自民党と協力し話しあわれたことは画期的なことだと思う』

☆これは七月四日でおわつた通常国会のあとのNHK国会討論会での五党代表の言い分ですが、可否同数で議長の決するところによる、という場面がでるようになつては、与党は多数で押し切る、野党は対決するというわけにはいかず、政治は妥協という本来の姿に向わざるを得ないこと。

☆野党同士が角突き合つていながら三木内閣打倒を叫んでもなんにもならないので、こんな状態なら衆議院を公平な小選挙区制にして保守、革新の二大政党時代を招来した方がスツキリするし、小選挙区制でも勝てる政党でなければ本物ではない筈。

☆中選挙区制によつて野党が群雄割拠していることが保守半永久政権の原因。

庭石は道東随一の当会社へご用命下さい
有限会社 大浦造園
庭石販売店
造園　土木　造林　造材　請負
足寄町芽登　T 五二
足寄有放　T 二四六六

大自然のなかの人工美
ーいで湯のふるさとー
観光と保養の
♨芽登温泉
足寄町芽登　T二八五五

霊きゅう車　葬儀仏具一式　花輪　生花
(に)自動車
新津はなや
足寄町西三区　T 二六二六

カメラ　八ミリ　写真材料
上野カメラ堂
上野復興
足寄駅通り　T 二五一二

新畳　表替　中古畳　フスマ張替
二段ベッド
敷物一式
マットレス
小林畳店
小林幸三郎
足寄町大通り山口整骨院前　T 二四二八

家具と建材
信用は最大のサービス
技術と納期を誇る!
家具　建具　製造販売
住宅内装に新建材を!
佐藤家具建材店
足寄駅前　電話二三三一番

お墓を新造、改造する方など
お気軽にご相談下さい（無料）
ただし毎日18時から20時まで（日曜は随時）
吉相墓研究会
主幹　高本修司
足寄町中央五区　高本とうふ店　T 二五〇五

マッカラー　スチール　共立
チエンソー代理店
刈払機各種　電動工具　造林用具
打刃物類　（機械迅速修理）
有限会社 鈴木鋸刃物店
足寄町大通り　T 二三〇七